

「家がいいね」 第215号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022. 4. 1



春分の日暮れです。真西に沈む日輪を追い堤防に駆け上がったもみるみる遠方の山影の間に消えて行きます。地球の自転は速いものです。幸せにも明日の日の出を信じられます。

さくらの季節が、好きなのです



早咲きの河津桜を愛でようと3月初め、志摩市波切のお寺へ。境内は満開、見事な手入れです。紫陽花の時にもいらっしやいと和尚さんに話しかけられました。次週、松阪笠松の桜を見て鈴鹿市かんの龍光寺に足を延ばし一度は、とっていた寝釈迦まつりに参りました。

これも「ね」に関連する話題です

龍光寺の涅槃図には、本来書かれることのない猫が居るといふのだそうです。猫は、天から届く起死回生の薬を受け取るネズミを邪魔する悪役なのです。覚悟の臨終を願う釈迦本人と、その死を何とか思い止まらせた人たちの緊張の構図です。絵師僧の明兆は、悪者を作らない人なのでしよう。

(平家物語の冒頭)

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
沙羅双樹の花の色、
盛者必衰の理を
あらはす。



「桜の樹の下には」 梶井基次郎

桜の樹の下には屍体が埋まっている！
これは信じていいことなんだよ。
何故って、桜の花があんなにも
見事に咲くなんて
信じられないことじゃないか。

「詩」論 1928 (昭和3)年



私が生きているって感じた時のこと

死体というものに、とことん付き合ったのは、医学部専門課程での系統解剖の時でした。皮膚の下に、どのような組織や内臓や筋や骨があるのかを、丁寧に腑分けする作業が数週間続いたのです。献体された御遺体に一礼して始まりましたが、防腐剤の刺激臭にボロボロ涙を流し、怖れの中でいいのだろうかと思いを走らせる日が続きました。実習開始の夜、銭湯に浸かった時でした。自分の皮膚が水をはじくことを感じ、涙がまた出ました。実感で「ボクは生きている！」と思ったものです。

当時の方々の献体との対話が無ければ今まで歩めなかったように思い返します。あれから40年余看取りに立ち合う時は、相手の生に直に接している感覚です。



桜が嫌いなところもある

一斉に咲き散るので滅私奉公の象徴にされた辛い歴史があります。「4月7日の桜」では沖繩に向けた戦艦大和の特攻を思い出します。

西行 山家集より



願わくは花の下にて春死なんその如月の望月の頃(釈迦の命日、旧暦2月15日を恋い願って)

4月〜5月の連休期間について

暦通り(4月28日29日、5月3日4日5日)お休みします。その他の日は診察対応です。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可